

2022年10月30日 午前礼拝
「小犬でも」 説教者:堺希望伝道師

【引用聖句】

マタイ 15:21~28

21. それから、イエスはそこを去って、ツロとシドンの地方に立ちのかれた。
22. すると、その地方のカナン人の女が出て来て、叫び声をあげて言った。「主よ。ダビデの子よ。私をあわれんでください。娘が、ひどく悪霊に取りつかれているのです。」
23. しかし、イエスは彼女に一言もお答えにならなかった。そこで、弟子たちはみもとに来て、「あの女を帰してやってください。叫びながらあとについて来るのです」と言ってイエスに願った。
24. しかし、イエスは答えて、「わたしは、イスラエルの家の失われた羊以外のところには遣わされていません」と言われた。
25. しかし、その女は来て、イエスの前にひれ伏して、「主よ。私をお助けください」と言った。
26. すると、イエスは答えて、「子どもたちのパンを取り上げて、小犬に投げてやるのはよくないことです」と言われた。
27. しかし、女は言った。「主よ。そのとおりです。ただ、小犬でも主人の食卓から落ちるパンくずはいただきます。」
28. そのとき、イエスは彼女に答えて言われた。「ああ、あなたの信仰はりっぱです。その願いどおりになるように。」すると、彼女の娘はその時から直った。

【説教要約】

誰かに頼みごとをしたり、願いごとをするときに、期待しないでする人はいません。同じように、神様に祈る時も、期待しないで祈る人はいないと思います。しかし、相手がいつまでも叶えてくれなかったり、冷たい態度を取るならば、最初持っていた期待は薄れてしまうものと思います。失望するからです。

今日の箇所では、神様に近付くときに私たちは信仰を試されることが分かります。信仰がなければ、本当の意味で願うことはできないのです。

今日は、一つのことだけ見ていきます。
それは、「願うとはどういうことか」ということです。

①

マタイ 15 : 21, それから、イエスはそこを去って、ツロとシドンの地方に立ちのかれた。
マタイ 15 : 22, すると、その地方のカナン人の女が出て来て、叫び声をあげて言った。「主よ。ダビデの子よ。私をあわれんでください。娘が、ひどく悪霊に取りつかれているのです。」
マタイ 15 : 23a, しかし、イエスは彼女に一言もお答えにならなかった。

イエス様と弟子たちが、ツロとシドンという地方に行かれた時のことです。この地方は、イエス様たちイスラエル人にとっては外国でした。今日でいう外国とは意味が違い、「神を信じていない汚れた人々」という認識でした。聖書では、異邦人と呼ばれています。私たち日本人も、その意味では異邦人なのです。

そのツロとシドンに住んでいた女の人がイエス様に会いに来ます。カナン人は、昔イスラエルがあった場所に住んでいた偶像礼拝の民でした。旧約聖書の出エジプト記からヨシュア記まで、このカナン人とイスラエル人の戦いが記されています。

申命記 20 : 16, しかし、あなたの神、主が相続地として与えようとしておられる次の国々の民の町では、息のある者をひとりも生かしておいてはならない。
申命記 20 : 17, すなわち、ヘテ人、エモリ人、カナン人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人は、あなたの神、主が命じられたとおり、必ず聖絶しなければならない。

神様にとって、カナン人は滅ぼすべき民族だったのです。それで、イスラエル人とカナン人の間には憎しみがありました。

そのカナン人の女性がイエス様のもとに来て叫ぶのです。「娘が、ひどく悪霊に取りつかれているのです」と。母親の、必死の叫びでした。

しかしイエス様は、その叫びを完全に無視して、一言も答えられなかったのです。

②

マタイ 15 : 23b, そこで、弟子たちはみもとに来て、「あの女を帰してやってください。叫びながらあとについて来るのです」と言ってイエスに願った。
マタイ 15 : 24, しかし、イエスは答えて、「わたしは、イスラエルの家の失われた羊以外のところには遣わされていません」と言われた。
マタイ 15 : 25, しかし、その女は来て、イエスの前にひれ伏して、「主よ。私をお助けください」と言った。

イエス様に無視されても、がっかりして帰っていくことなく、なお叫びながらこの女性は着いていきました。

すると、一緒にいた弟子たちの方がかわいそうに思ったのか、あるいはうるさいと思ったのか、「(治して) 帰してやってください」とイエス様にお願いするのです。今まで、イエス様が誰かの癒しを断ったことがなかったからです。

しかしイエス様は答えます。「わたしはイスラエルの人々以外に遣わされていない」と。驚かれるかもしれませんが、もともとイエス様はイスラエルの救い主として来られたのです。福音書を見ると分かりますが、ずっとイスラエルのために働かれています。イスラエルは、神様が特別に選ばれた民だからです。

ですので、「イスラエルではない異邦人を助けるのは、わたしの働きではない」と言われているのです。

私たち日本人も、この意味でカナン人の女性と同じです。もともと、私たち異邦人はイエス様のお働きの対象ではないのです。

このカナン人の女性からしてみれば、「あなたはわたしが助けるべき相手ではない」ときっぱり言われてしまったのです。

しかし、この女性はどうしたかと言うと、イエス様の前にひれ伏すのです。そして、「主よ。私をお助けください」と、懇願を続けるのです。

③

マタイ 15:26, すると、イエスは答えて、「子どもたちのパンを取り上げて、小犬に投げてやるのはよくないことです」と言われた。

マタイ 15:27, しかし、女は言った。「主よ。そのとおりです。ただ、小犬でも主人の食卓から落ちるパンくずはいただきます。」

マタイ 15:28, そのとき、イエスは彼女に答えて言われた。「ああ、あなたの信仰はりっぱです。その願いどおりになるように。」すると、彼女の娘はその時から直った。

ひれ伏して懇願した女性に対して、イエス様はどうされたのか。

「子どもたちのパンを取り上げて、小犬に投げてやるのはよくないことです」と言われました。

子どもは、イエス様が遣わされたイスラエルのことです。パンは、イエス様の働きや奇跡です。小犬は、この女性をはじめ、異邦人のことです。

イエス様は、「家で食事を食べるのは子どもたちでしょう。その食事をペットの犬に上げるのは良くないことだ」と言われたのです。

「カナン人であるあなたは、パンをもらう資格のない犬のようなものだ」と言われてしまったのです。

しかしこの女性は答えます。

第一に、「主よ。その通りです」と。神様から憐れんでもらう資格のない者だと認めるのです。

その後続けて、「ただ、小犬でも食卓から落ちるパンくずはいただきます」と言います。もらう資格のない者ですが、おこぼれだけでもいただきたい。そのような心境が見て取れます。

この女性の姿を見て、イエス様は言いました。「あなたの信仰はりっぱです」と。そして、その瞬間からこの女性の娘は治ったのです。イエス様が癒されたのです。

この女性の姿から、「信じる」とはどういうことかを教わります。あるいは「願う」とはどういうことなのか。

私たちも、人に対しても神に対しても期待しないで願うことはありません。願いが叶うことを期待するのです。

しかし、相手の人から無視されたり、「それは私の仕事じゃない」と言われたら、普通は諦めてしまうのではないのでしょうか。または相手に怒りが沸いて、「もういい！」と自分から離れて行くのではないのでしょうか。

この女性もまた必死にお願いしました。弟子たちもあまりのしつこさにイエス様にお願いしたほどです。

しかしイエス様はこの女性の叫びを無視し、「わたしの働きではない」と言われ、「パンはこどもに与えるもの」と拒否されました。

ところがこの女性は三度拒否されても食い下がりました。普通なら、「そんな風に言うなら医者に行きます」とか「私を馬鹿にして！」とか思いそうなものです。

この女性がそう思わなかったのはなぜでしょう。

一つは、決定権がイエス様にあると思っていたです。自分はお願いする立場で、イエス様はそれを決める権利のあるお方と認めていたからです。また、自分はカナン人で、神様からあわれんでいただく資格がない者だとわきまえていました。まさに、パンがもらえない犬のような存在だと知っていたのです。

それでこの女性はイエス様のおことばに逆上して怒るようなことをしなかったのです。神様はお願いを叶えてくれる便利な相手ではなく、私のすべてを決める権利を持っておられると心から認めていたのです。

もう一つは、イエス様にしか希望がなかったからだと思います。娘が悪霊に憑かれ、治すためにあらゆる手段を尽くしたと思います。散々医者に行ったのではないのでしょうか。しかし、どこに行っても癒されることはありませんでした。人にできる努力や能力では娘を治すことはできないと知っていました。

それでイエス様を前にした時、「この方が神に遣わされた方なら、必ず治す力がある」と信じていたのです。

だから、どんなに否定されても、イエス様にしか望みがないので食い下がったのです。

イエス様は、この女性の信仰を試しておられたのです。試せば試すほど、この女性の信仰があらわになっていきました。

私たちも、祈るときには信仰が試されます。現実には、自分の力でできることは多くあるように思われます。そういう時には信仰は試されません。

信仰が試されるのは、「もう、どうしたら良いか分からない」と自分の手に負えない出来事にぶつかった時です。しかし、神様には自分にも他人にも不可能なことを成し遂げる力があるということ、その試練の中で知るのです。

望みは、神様だけにありますか。

マタイ 7:7, 求めなさい。そうすれば与えられます。捜しなさい。そうすれば見つかります。たたきなさい。そうすれば開かれます。

マタイ 7:8, だれであれ、求める者は受け、捜す者は見つけ出し、たたく者には開かれませぬ。

マタイ 7:9, あなたがたも、自分の子がパンを下さいと言うときに、だれが石を与えるでしょう。

マタイ 7:10, また、子が魚を下さいと言うのに、だれが蛇を与えるでしょう。

マタイ 7:11, してみると、あなたがたは、悪い者ではあっても、自分の子どもには良い物を与えることを知っているのです。とすれば、なおのこと、天におられるあなたがたの父が、どうして、求める者たちに良いものを下さらないことがありましょ。